

「～にて」は江戸時代の言葉でござる。」若い頃に指導医から原稿に赤ペンでこのように注意書きをされて以降、「～にて」を使うことを止めました。「～にて」は本来古語ですが、現在使用して悪いわけではありません。しかし、「主訴・黄疸にて受診し、当院にて、CTにて膀胱腫瘍を指摘され、生検にて腺癌が検出されたため、膀胱癌の診断にて手術を行った。」と「～にて」のオン・パレードではさすがに注意したくなります。「～で」で意味は伝わりますし、「黄疸を主訴に受診し、当院でCTを撮影したところ膀胱腫瘍を指摘され、生検で腺癌が検出されたため、膀胱癌の診断で手術を行った。」と、もっと丁寧に表現することもできます。

医師が最も「～にて」を用いる職種であろうと思いますが、その中でも高名な先生方の文章には「～にて」という表現が少ないように感じます。次はそういった視点でも読んでみてください。「～にて」は遠山の金さんの「これにて一件落着」など、時代劇の中で使われてこそ生きてくると個人的には思っています。また「～にて」を多用している投稿論文には、他にも誤字、言葉の誤用などが目立つ傾向があります。「CT撮影したところ」などの助詞が抜けた表現（「CTを撮影したところ」とすべき）、血管の走行（「走行」は車などの自力で動けるものが走っていく様子を示す表現であるため、「地層の走向」と同様の扱いで「血管の走向」とすべき）、改行後にマスあけない、句読点がない、等々です。

数学者・藤原正彦氏の著書である「国家の品格」や「祖国とは国語」を読まれた方も多いと思いますが、国語こそがその国の文化であり、国語力が教養の程度を測る重要な指標でもあるから、英語よりもまず国語の基礎をしっかりと身に着ける必要がある、という論調で書かれています。英文論文の執筆も重要ですが、正しい日本語で論理的な文章を書けなければ、優れた英文論文を書くこともできません。社会的地位が上がれば挨拶文などを書く機会も増え、その地位に見合った洗練された内容の日本語の文章を書かなければならなくなります。ですので、私もまずは日本語の症例報告をしっかりと書くことと、読書を若手に強く勧めています。

教室では「言葉にうるさい大塚」と若干煙たがられていますが、それでも注意し続けていこうと思っています。著者へのコメント欄に上記の記載があった場合には、高い確率で査読者は私です。

(大塚隆生)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第25巻 第3号) 2020年5月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価：本体 2,800 円 + 税

2020年 年間購読料：16,380 円 + 税 *学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当：池田，平澤，渡部)

<http://www.jses.or.jp>

発 売：(株)医学書院 (代表：金原 俊) (本誌担当：水野，安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600025003000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

アンケート調査による鼠径ヘルニア修復術後晩期疼痛

の検討—内視鏡下アプローチと鼠径部切開法の予後

比較野々垣郁絵・他 名古屋大学大学院医学研究科消化器外科学
 神奈川県下の高齢者胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除術の現

状佐藤 渉・他 横浜市立大学医学部消化器・腫瘍外科

肥満症, 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブバ

イパス術を安全に実施するために施設内に集中

治療室は必須か関 洋介・他 四谷メディカルキューブ減量・糖尿病外科センター

●総説

内視鏡外科手術における周術期抗血栓管理に関する研究—日本内視鏡外科学会総

会における動向および展望藤川貴久・他 小倉記念病院外科

●症例報告

腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後に発症した鼠径部腹壁癒痕ヘルニアを

TAPP 法にて修復した 1 例久保田暢人・他 神戸赤十字病院外科

脊柱側彎症に併発した上腸間膜動脈症候群に対し腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を

行った 1 例藤井正和・他 手稲溪仁会病院外科

腹腔鏡下に摘出した全周性大型食道平滑筋腫の 1 例坂野慎哉・他 岐阜大学大学院腫瘍制御学講座腫瘍外科学分野
 正中弓状靱帯圧迫症候群に対して腹腔鏡下超音波を併用し正中

弓状靱帯切離術を施行した 1 例橋本恭弘・他 福岡大学医学部外科学講座消化器外科

胸部中部食道表在癌に対する胸腔鏡下食道全摘後にポート孔再発をきたした

1 例久留宮康浩・他 豊田厚生病院外科

完全胸腔鏡下に摘出した縦隔発生硝子血管型 Castleman 病の 1 例松岡弘泰・他 山梨大学第 2 外科

●手術手技

小児脳室腹腔シャント術における腹腔鏡の手技—自験例の検討尾山貴徳・他 岡山大学病院小児外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。